

街を再生する「環境演出」 駐輪場、駐車場も重要な役割果たす

ゲスト 名古屋工業大学大学院 准教授
博士(芸術工学)

伊藤孝紀

伊藤先生に初めてお会いしたのは11月号に掲載した、名古屋市鶴舞地区のコミュニティサイクル実証実験取材においてだった。その際うかがったこれまで取り組みのユニークさに惹かれ、改めて対談をセッティングしたところ、その引き出しの多さに驚いた。自転車に加えて、自動車駐車場緑化やビニル傘のシェアリング実験… パーキング業界にとって参考になるヒントも多く、濃密な時間となった。(収録：12月5日)

伊藤孝紀
名古屋工業大学大学院 准教授
博士(芸術工学)

森井 博

一般社団法人 自転車駐車場工業会 専務理事
一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
サイカパーキング株式会社 代表取締役会長

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人





九死に一生を得た経験が 独自の着想に結び付いた

森井 伊藤先生には、先月号で名古屋工業大学のコミュニティサイクルの取り組みを紹介する際に少し誌面に登場いただきましたが(編集部注: 2012年12月号46ページ)、本格的に読者の皆さんにご紹介するのは初めてになります。まずは自己紹介からお願いできますか。

伊藤 バブル経済が終焉を迎える頃に名古屋の名城大学の建築学科に入学しました。当時は、それまで各地で盛んに行われていた大規模複合施設の建築や再開発が影をひそめ、街には空き地や空き店舗が目立ち始めていた時代だったんですね。それを見て私は「自分が建築家なりデザイナーとして世に出て行く頃には、もう、バブル時代のような大規模建築を手掛けることはないかもしれない。それよりも空き地、空き店舗などを上手く活用することに目を向けていくべきだ。これが今後の建築家、デザイナーの在り方なのではないか」といったことを考えたのです。

森井 スクラップアンドビルドの時代はもう終わりと悟ったわけですね。

伊藤 ええ。建築というと、極論すれば建築物という箱をつくる仕事ですが、空き地や空き店舗なども活かすとなると、建造物だけでなく街並み、ランドスケープ、樹木、街路などそういった街を形成するパーツも配慮すべき大切なアイテムになってきます。一方、建築物の内部にはインテリアやプロダクトとか、人間が触れて、生活の中で活用するものが欠かせません。このふたつは、私のよう

な専門家から見れば別領域ですが、一般の人から見ればシームレスです。ほとんどひとつにつながっていますよね。例えば、素敵なお店の条件には、お店だけでなく、その周囲の樹木や街路なども構成要素として入ってくると思います。

森井 確かに、私たちは店の内部だけでなく周りの雰囲気も合わせて総合的に評価しますよね。レストランの中がどれだけ美しく、素晴らしい料理を提供したとしても店先が汚ければがっかりしてしまい、味も落ちてしまうような感覚。駐車場でも同じことが言えますよ。

伊藤 そうなんですよ。そこで、建築物の内部から外の街並みまで横断的にひとつの環境としてとらえてデザインしていく、そんな発想に行き着いたんです。そうした広範な意味での街づくりを「環境演出」と名付けました。

森井 環境演出。初めて聞く言葉です。少し補足していただけますか。

伊藤 文字通り「環境」と「演出」を合わせた造語です。まず演出は、芸能の世界でつかわれる言葉ですよ。原作を読み、演出家の視点で解釈して、興行収入を得るためにドラマ仕立てにするのか、あるいはミュージカルとして見せていくのか、映画に仕立てるのか方向性を決めていく作業です。つまり、演出は無から有を生み出す創作とは真逆の関係にあるわけです。

森井 では「環境」は。日本語で考えるとエコロジーと訳してしまうのですが。

伊藤 環境は、戦後およそ60年かけてつくられてきた既存の建築や街並

みです。これを原作と考え、上手く演出していくことが「環境演出」であり、自分が取り組むべき仕事だと考えました。

森井 その着想を大学生の頃、既に得ていたと?

伊藤 はい。自分が建築物や街並みに対して何か気がついたり、実現したいアイデアが浮かんだりした時は、企業や行政にプレゼンに行っていました。市長に手紙を書き、時間を割いてもらって思いを伝えたり、これだと思う企業の担当者に会ってアイデアを訴えました。

森井 すごいバイタリティですね。伊藤青年をそこまで衝き動かした原動力は何だったのですか。

伊藤 唐突な話になってしまいますが、高校3年生に進級する直前の春に長野県で交通事故に遭ったことがきっかけです。命を取り留めたのが奇跡といってもいいくらいの重大事故でした。高速道路を走る車に乗っていて、その日は雨が降ってしましてハイドロプレーニング現象によるスリップ事故に巻き込まれたのです。実は今も頭蓋骨の左半分、前頭葉の位置に手のひらくらいのサイズの人工骨を入れています。

森井 ええ!?今はお元気そうなのでそんなふうにはとても… 九死に一生を得ましたね。

伊藤 事故現場の近くに大きな総合病院があり、素速く処置をしていただけのこと、しかも、そこで当直していた先生が脳外科の権威だったことで私は助かったのです。その後、手術を繰り返し、長く入院することになりましたが、とにかく私は命をつなぐことができました。

森井 何事も命あってのことですからね。

伊藤 その事故のせいで高校3年生の時はほとんど学校に行けず、受験の準備がままならないまま地元の名城大学に進みました。が、建築家として将来華々しく活躍するなら、東京の有名大学に進むことが条件なのは分かっていたので、自分に何ができるのだろうと悩み抜きました。しかし、あの大事故から生還したのだから、自分には社会や環境に貢献できることがあるはずだと前向きに考えた。そうするうちに環境演出の着想が生まれてきたのです。

森井 そして行政、企業へのプレゼンを行ったと。

伊藤 ほとんど「プレゼンマニア」でしたね。相手の信頼を勝ち得るために大学在学中に今も私が代表を務めている「TYPE A/B」という会社を起し、企画書を山のように書いて持参しました。私の名前の「伊藤」は結構多い苗字なので印象に残りづらいだろうと真っ赤な名刺にしたり、プレゼン書類やお礼の手紙の便箋も合わせて真っ赤なステーションナ

リーに統一していました。後で電話するときに「真っ赤な名刺の伊藤です」と言うわけですよ。そうすると先方は「ああ、あの名刺の伊藤君ね」と反応してくれる。

森井 なるほど。それは良い作戦ですね(笑)。

伊藤 現在でも、基本的にプレゼンマニアであることに変わりはありません。気がついたことや提案があれば、企業や行政に積極的に働きかけられます。大学生の頃と違うのは、経験値を上げ、知識を蓄えたために、プレゼンが通って実現できる機会が増えたことでしょうか。

建築、デザインだけでなく プロデューサー視点も重要

森井 大学を卒業されてからはどのような道を歩んできたのですか。

伊藤 卒業後は、北山創造研究所で修業をさせていただきました。建築家の安藤忠雄さんの双子の弟の北山孝雄さんが代表を務めているシンクタンクです。

森井 何故そこへ？

伊藤 環境演出を手掛けていくにあたり、物事をプロデュースしていく力を身に付けなければと思いしました。そこで良い場所はないかと探して、北山創造研究所の門を叩きました。東京でよく知られている仕事としては、東急ハンズ、渋谷のオンエアースト・ウエスト、アクシス、サンストリート、フロムファーストなどのプロデュース。さらにカメラのライカやパタゴニアなどの製品を日本に広めたのもそうです。

森井 建築、デザインというより、プロデューサーの視点を養うために入ったと。

伊藤 ある問題に着目して、そこからどんな街づくりをするべきか、どんなビジネススキームを生み出していくかを学びたかった。そして、できるだけ既存の街並みや交通機関を活用して、ポテンシャルを引き出す。そんな力を北山創造研究所で付けられたと思います。

森井 それが2012年の11月から12月半ばまで行われたコミュニティサイクルNITYにもつながったということでしょうか。

伊藤 そうですね。コミュニティサイクルを利用してもらうことで人の回遊が促進されて、街の活性化、再生化につなげようというわけです。実は2008年にも、名古屋市東区の白壁地区でコミュニティサイクル実験を行っていきまして、真っ白に塗った放置自転車、その地区内で剪定された樹木を再利用した駐輪ラックなどを使いました。白壁地区というのは、江戸時代に武家屋敷が集まっていた地域で今もその風情を伝える白壁や黒塗りの塀、屋敷の連なる景観、



名古屋駅前地区まちづくり協議会デザインマニュアルを作成。都市計画においても場所の価値を上げるためのブランディングが必要という考えからテーマカラーやロゴをデザインしたという



碁盤目状の地割りなどが残されているのですが、近年、放置自転車が目立ってきておりまして。その解決と人の流れを生む、一石二鳥の取り組みだったわけです。

森井 そういえば新潟でも放置自転車を集めてレンタルに使うという取り組みがありました。ただ、面白かったのは、高級な自転車のレンタルも同時に行っていたことです。

伊藤 高級な自転車というのは？

森井 クロスバイクのような自転車で、一般のタイプに比べるとスマートでスピードも出る自転車です。2種類が新潟市内を走っていました。

伊藤 やはりカッコいい自転車に乗って颯爽と走りたいというニーズはあるわけですね。

森井 そうですね。その意味では、先生が2012年11月に行ったコミュニティサイクルもデザインが独創的でした。やはり、見た目は大切ですよね。私は個人的にイギリスのブロンプトンのデザインが好きですね。世界的に知られた折りたたみ自転車で、折りたたんだ状態でコインロッカーに入れることができるんです。日本でもぜひ導入したいものです。

ビニル傘シェア実験結果をコミュニティサイクルに活かす

伊藤 自転車のシェアだけでなく、以前には、「なごやかさ」というネーミングで、傘のシェア実験も行ったことがあるんです。森井さん、日本における傘の年間消費量って想像つきますか？

森井 1億本？



膨大な量のビニル傘がゴミになる現状に対処するために行った、ビニル傘のシェアリング社会実験

伊藤 およそ1億2000万本で日本の人口とはほぼ同じです。そして、その7割以上はビニル傘なんですね。ビニル傘はすぐ捨てられ、ゴミになってしまうので、それを何とか減らす目的で、名古屋市内でビニル傘のシェア実験に挑みました。とりあえず利用率の目標をイチローの打率以上に設定して(笑)。

森井 結果はどうでしたか。

伊藤 最初は百貨店や路面店にお願いして、店頭で傘を保管する入れ物を置いたんですね。そこにある傘を借りて、また戻してもらうというシンプルな方法です。どこまで傘が返ってくるだろうと思っていたら、名古屋の人は案外律義で5〜6割は戻っ

てきた。よし、それなら100%にできるだけ近づけようということで、携帯電話でQRコードを読み、その情報をWEBに飛ばして番号を与え、それでビニル傘の入れ物の鍵を開けるなど試行錯誤を繰り返しました。

森井 その結果、どんな収穫がありましたか。

伊藤 普段皆さんが持っていないモノを持ってもらったり、使っていたかどうかというのは、どうしても面倒くさがられてしまい、なかなかやってもらえないということでした。最初は社会実験という目新しさがあり、興味も手伝って使っていただけるのですが、後が続かず定着しないのです。やはり環境演出の手法で、既



伊藤氏はソファやメガネなプロダクトデザインも手掛けている。ソファのカタログを見せてもらったところ、発行人の森井はすっかり気に入ってしまった

にあるモノやシステムを上手く使えないとダメだと感じました。その反省を踏まえて検討を重ねていたところ、IHIエスキューブさんや蔦井さんの技術協力をいただいて、多くの人が持っている交通系ICカードを使えるコミュニティサイクルのシステムをつくることができたのです。

森井 持っている人が限定されるクレジットカードではなく、交通系ICカードで学生や主婦にも利用者層を増やそうという仕組みを実現したのは画期的でしたね。

伊藤 ありがとうございます。ビニル傘に話を戻しますと、社会実験を進めていくうちに、商店会組合や、街をきれいにしていこうと朝の清掃活動をしている団体、若者に分かりやすいようにマップを作って配布している人たちとか、多様な街づくりの活動が存在することに気がつきました。そして、彼らがビニル傘のシェアリングに協力してくれたんです。自分たちの街を改善して、快適にしていこうという思いのある人たちとつながることができたんですよ。



森井 まさに環境演出を地で行く出来事ですね。

物事を成功させるのは「間(ま)」づくり

伊藤 よく、街づくりとは、街並みだけではなく、モノや人もつくっていかねばならないといわれます。そこで大切になるのが、モノとモノ、人と人をつなぐ「間(ま)づくり」ではないでしょうか。例えば、街の駐車場に何らかの付加価値を付けるために勉強会をしましょうと企画したとします。その次のアクションとして必要なのが、行政や民間のビジネスパーソン、さらには不動産会社など、通常は異なるフィールドで活動している人同士の連携です。つまり、違う組織をつなぐ仕掛けが必要になるわけです。

森井 間づくりというのは、大いに共感できる言葉です。パーキング業界においても、駐車場を介して顧客や管理員、メンテナンスなどさまざまな人やスタッフ同士をつなぎ、それぞれの声を吸い上げて反映していく作業は大切ですからね。

伊藤 自転車だけでなく、自動車駐車場に関連した仕事もしています。「gre・eco(グリコ)」という緑化駐車場の実証実験なんです。

森井 トヨタ自動車のグループ企業をはじめ、いくつかの会社が駐車場の緑化システムを開発していますね。我々の業界でも大いに注目すべき製品ですので、先生の緑化駐車場というのも非常に興味があります。何かユニークな特徴を備えているのでしょうか？

伊藤 まず、何はともあれロゴですかね。お菓子の江崎グリコさんと間違えられて訴えられるくらいメジャーにしていきたい、という意気込みでデザインしました(笑)。

森井 ははは。では、肝心のシステムの内容を教えてくださいませんか。

伊藤 クリーンでエコなことに取り組んでいこうというところから始めて、基本的には地球温暖化対策、景観、空気の問題などいろいろな社会・環境問題を包括した街づくりの一環です。名古屋市内には平面駐車場が増えていまして、少し古いデータになりますが、2007年の時点では市の総面積の8%に達していました。今はもっと増えて10%近くに達しているかもしれません。ただし、別に駐車場の存在が悪いというわけではなく、むしろ良いのです。というのは、超高度過密化している都市構造の中で、ビルが減り、その代わりに平面駐車場のような空間が増えれば、風通しが良くなりますし、人の視線も通るようになってセキュリティ上も都合が良いからです。

森井 なるほど。そこで駐車場を緑化する目的は何ですか。

伊藤 駐車場の路面のアスファルトと乱立する看板という駐車場の典型的なしつらえを、緑化によって何とかしたいと思いました。そうすれば駐車場は地域に開かれ、根付いていけるのではないかと。最初に緑化と申し上げましたが、それだけが目的ではありません。例えば駐車場のサインをつくり、壁面緑化して、上には太陽光パネルを付け、これからEVが普及していく時代に備えて充電ステーションとしての機能を持



たせる。あるいは蓄電池を備えて、EV以外に電気を供給する役割を担わせる。そうした機能の導入も含んでいます。

森井 そうすれば仮に何らかの災害が起きた時に、携帯の充電ができたりしてちょっとした緊急避難スポットにもなりますね。

駐車場が都市部の子どもの環境学習の場に！

伊藤 名古屋市さんにこの提案が採用されまして、2010年には市庁舎の敷地内に緑化駐車場を実現することができました。また、名古屋城近くのホテル、ウェスティンナゴヤキャッスルでも同じ緑化駐車場を採用していただきました。現在、我々が直接手掛けている緑化駐車場だけで約20カ所。他の業者さんの運営も含めると計100カ所くらいの緑化駐車場が稼働しています。なかには、500㎡、1000㎡といった大規模な駐車場もありまして、それらは地域の小学校の児童避難先に指定されているケースもあるんですね。都市部の小学校の敷地内では、畑をつくったり、土に触れたりする場所が確保できない場合がありますが、緑化駐車場がその代わりになっているケースもある。一部の駐車場では、児童が緑化部分に草花を植えて育てるスキームも実施しています。

森井 駐車場が子どもの学習拠点にもなるというのは素晴らしいですよ。

伊藤 こうすることで、駐車場の管理運営会社は地域に対して良いイメージを与えることができますし、緑化を請け負う会社はビジネスとして積



「gre・eco（グリコ）緑化駐車場の社会実験。建物壁面のコーポレートカラーやサインを植栽にして緑を増やしたり、駐車メーターに太陽光発電を一体化する取り組みも。右端は子どもたちが環境学習を行う場も兼ねている緑化駐車場



極的に業務を進めていくことができます。さらにEV充電機器メーカーや自動車メーカーがからむことも考えられます。そうやってWinWinの関係を構築できれば理想的です。

森井 それもまた、さっき先生がおっしゃった間づくりですね。緑化自体はどのように行うのですか。

伊藤 既存のアスファルトの上に載せることができます。アスファルトをめくって緑化するのでは産業廃棄物が生まれてしまうわけで、意味がありません。

森井 植物の種類は何ですか。

伊藤 メンテナンスが必要ですが、カモミールだとか花や実がなるものは基本的にOKで、駐車場で季節を感じることができるのも特徴にしています。すると、テントウムシやバッタが飛んできて、子どもたちが世話をしているとひょっこり顔を出したりするようになります。実は、さっきお話ししたウェスティンでは、隣接する名古屋城のお濠から上がってきたらしい40センチぐらいの大きな亀が、甲羅干しをしていたことも確認されました(笑)。地元の新聞に掲載されて話題になったんですよ。平面駐車場が生物が棲息する場所にもなるというのは、ちょっとす

ごくないですか!?

森井 それは確かにすごいエピソードです。パーキング業界では駐車場にさまざまな付加価値を付けるべく、長く議論を重ねていますが、生物が暮らすという可能性には触れていませんでした(笑)。その駐車場、私が理事長を務めている一般社団法人日本パーキングビジネス協会の平成24年度「パーキンググランプリ賞」宛に、ぜひ応募してください。改めて詳細を見させていただければと思います。本日は実にさまざまな話題を提供いただき、楽しい時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

PP

